



すみ鬼にげた

岩城範枝作 松村公嗣絵 福音館書店

さんびやくねん
三百年あまり前のこと。少年ヤスは、父のような宮大工
になるために、見習いとして、唐招提寺の修理を手伝っ
ていた。ある日、仕事を終えたヤスは、お堂の前で「うお
ーうおー」という泣き声を聞いた。見ると、ちいさな鬼
が、軒下の隅木を肩でささえ、正座したまま泣いている。
鬼は、唐の国からやってくる船の上で寺の坊主に見つかり、九百年
ものあいだ、お堂を守る「すみ鬼」
として、すえつけられていたという。
すみ鬼はヤスに、ここからはずし
てほしいとたのむのだが…。

